



一般社団法人
日本化学工業協会



レスポンスブル・ケア®

GHS 対応ガイドライン

ラベル及び表示・安全データシート作成指針

2023 年 9 月

一般社団法人 日本化学工業協会

一般財団法人 日本規格協会 発行

はじめに

化学製品は、国民生活の福祉と便益にとって必要不可欠な素材であるが、種類や取扱量が多だけでなく使用形態もさまざまであることから、予期せぬ環境汚染の事態を生じたり、誤って使用したために災害を起こしたり、健康障害を起こしたりする可能性がある。そのため、化学製品の供給事業者は、こうした可能性を常に考慮して、環境・安全・健康面の影響に関する調査研究に努め、安全な使用と取扱いを確保するため参考となる情報を関係者に周知させることが要請されている。

一般社団法人 日本化学工業協会は、この要請に応えるとともに、国際的な環境問題、化学物質安全問題の高まり等の状況に鑑みて、1992年8月に「製品安全データシートの作成指針」を策定した。次いで、化学物質排出把握管理促進法、労働安全衛生法及び毒物劇物取締法で規定され、MSDSの内容及び順序に関するJISが制定されたため、2001年10月に「製品安全データシートの作成指針」の改訂版を策定した。

その後、国際連合の経済社会理事会で決議されたGHS（Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals、化学品の分類と表示に関する世界調和システム）を導入するために、SDSを規定するJIS Z 7250の改正及び、表示制度の実施に基づき、2008年に指針の改訂が行われ、GHS対応ガイドラインとした。また、2011年の国連GHS文書の改訂、2012年にはGHSが化学物質排出把握管理促進法、労働安全衛生法の危険有害化学物質等に取り入れられたことを受けて、更にガイドラインの改訂が行われた（2012年6月発行）。そして今般、JIS Z7252（GHSに基づく化学品の分類方法）、JIS Z7253（GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS））が改正され、GHS改訂6版の内容に改められることに対応するため、GHS対応ガイドラインも改訂されることとなった（2019年6月発行）。

2019年のガイドラインの改訂は、2012年の改訂同様、SDSの作成指針とラベルの作成指針の両方を包含するものとして策定した。すなわち、化学製品の安全性等の情報を記載する安全データシートの新しい様式、内容について、我が国における関係行政はもちろん、国際的な整合性を配慮し十分適合するものとして作成されている。

第1部が本ガイドラインの概要として改訂の主旨とGHSの概要、分類、作成に必要な情報の収集、整理について、第2部がラベル及び表示作成指針、第3部が安全データシート作成指針から構成されている。添付資料としてSDS及びラベル表示の作成担当者だけでなく、SDS及びラベル表示にさまざまな形で関係する方々に参考となるように、GHS関係の参考資料、SDSとラベルの作成事例を付してある。従来記載していた、危険有害性情報のコード、注意書きのコードなどの一覧表は、改正されたJIS Z7253と記載が重複するので割愛した。

その後、この改訂版（GHS対応ガイドライン-2019）にいくつかの誤りがあることが

判明し、また 2022 年の労働安全衛生法の政省令等改正による情報伝達の強化を受け、これらの事項を反映させるために、2023 年に一部改訂版（本冊子）を発行することとなった。したがって、本冊子は、GHS 対応ガイドライン-2019 をベースに一部を変更したものとなる。

SDS 及びラベル表示制度は、関係法令の遵守だけを目的としているものではなく、情報提供に係る指針の遂行及び自主的な取組みによって、適正な化学物質管理を推進するものでなければならない。化学製品の供給事業者がラベル、表示や安全データシートを作成する際だけでなく化学物質管理の関係者に広く活用されることを期待する。

2023 年 9 月

一般社団法人 日本化学工業協会

編集委員名簿 （五十音順）

GHS 対応ガイドライン-2019

今西 邦彦	JXTG エネルギー株式会社
大平 博之	昭和電工株式会社
小里 幸徳	住友化学株式会社
長部 雅己	三井化学株式会社
小松 あずさ	三菱ケミカル株式会社
高崎 直子	三菱ケミカル株式会社
轟谷 泰之	一般社団法人 日本化学工業協会

GHS 対応ガイドライン-2023

今西 邦彦	ENEOS 株式会社
長部 雅己	三井化学株式会社
小松 あずさ	三菱ケミカル株式会社
佐藤 日出夫	住友化学株式会社
高崎 直子	三菱ケミカル株式会社
刀祢 英	一般社団法人 日本化学工業協会
船井 睦	株式会社レゾナック

目 次

第一部 GHS 対応ガイドライン概要

第 1 章 概要	1
1.1 ガイドライン改訂の趣旨	1
1.2 GHS とは	3
1.3 GHS の概要.....	3
1.4 GHS の実施と法的扱い.....	4
1.5 GHS に関連する JIS	5
1.6 本 GHS 対応ガイドラインの適用範囲	6
1.7 全体作業手順.....	7
第 2 章 分類、作成に必要な情報の収集、整理	8
2.1 SDS の制度・作成に関する参考資料	8
2.2 SDS の作成全般用参考資料.....	8
2.3 SDS の 16 項目別の参考資料	12
2.4 その他参考となる資料.....	18
第 3 章 用語集	20

第二部 ラベル及び表示作成指針

第 1 章 基本的事項	29
1.1 作成方針	29
1.2 適用範囲	29
1.3 日本化学工業協会の PL 対策ガイドライン	29
第 2 章 JIS ラベルの作成要領	30
2.1 ラベルに記載が必要な事項	30
2.2 JIS ラベルの構成例.....	31
2.3 絵表示	31
2.4 注意喚起語	34
2.5 危険有害性情報	34
2.6 注意書き	34
2.7 化学品の名称.....	35
2.8 供給者名	36
2.9 補足情報	36

第 3 章 国内法規によるラベル表示	37
3.1 化学物質排出把握管理促進法	37
3.2 労働安全衛生法	37
3.3 毒物及び劇物取締法	39
3.4 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	40
3.5 消防法	42
3.6 高圧ガス保安法	44
3.7 火薬類取締法	44
3.8 船舶安全法	45
3.9 航空法	45
3.10 海洋汚染防止法	46
第 4 章 自主基準によるラベル表示	47
4.1 危険回避の絵表示	47
4.2 容器イエローカード	47
第 5 章 ラベル及びラベル要素の仕様	48
5.1 ラベル要素の色、形、大きさ	48
5.2 ラベルの仕様	48
5.3 ラベルの印刷、貼付	49
第 6 章 ラベル作成要領	51
6.1 表示する情報の収集・整理	51
6.2 JIS によるラベル内容の決定	51
6.3 法令上必要な表示及び自主表示の確認	54
6.4 ラベルのデザイン	55
6.5 SDS との関係	56
第 7 章 作業場表示	57
7.1 一般	57
7.2 作業場の容器への表示	57
7.3 作業場内の表示の代替手段	57

第三部 安全データシート作成指針

第 1 章 基本的事項	59
1.1 基本的事項	59
1.2 適用範囲	59
1.3 法的取扱い	61
1.4 SDS の基本構成	61

1.5	GHS 対応ガイドライン-2012 からの変更の内容	61
1.6	営業秘密上の取扱い	68
第 2 章	SDS 作成手順	69
2.1	SDS の全体作成手順	69
2.2	作業手順ごとの注意事項（ポイント）	69
第 3 章	SDS の記載要領	75
3.1	全般的事項	75
3.2	表題、ページ等の扱い	76
3.3	各項目の記載要領	76
3.4	営業秘密上の取扱い	126

添付資料

1. GHS 文書

附属書 1	ラベル要素の割当て	135
附属書 2	分類および表示に関する一覧表	155

2. SDS 作成事例

1)	エピクロロヒドリン	192
2)	ステアリルトリメチルアンモニウムクロライド液	202
3)	ウレタン樹脂塗料 ホワイト主剤	208
4)	ゴム系溶剤形接着剤	218
5)	香料	224
6)	ポリマー A	230

3. ラベル作成事例

1)	混合物のラベル	236
2)	スペースが小さい場合	237
3)	輸送関係法規との対応を配慮したラベル	239